

ID	発症日	報告日	報告機関	ワクチン名	成分	接種部位	製造国	有効成分	有	無	無	追加接種回数	感染症(PID)	出典	概要
		90665											チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail 20090730.2666	インドのKeralaの5地域、特に北部において、モンスーンの季節の間に、数十万のヒトが主に蚊に刺されることで発症するウイルス熱に感染しており、この地域でこれまでに10人が死亡した。衛生報告によると、この5地域で15万人以上のヒトが数日で感染しており、インド政府は病気の広がりを検証するために必要なすべての手順をとっている。デング熱、チクングニヤおよび肝炎の症例も多数報告されている。地域によって症状は異なるが、蚊が媒介する伝染病もしくは激しい体の痛みを伴うウイルス熱によるとしている。Malappuramの地区管理医師はモンスーンの後、発熱患者は特に6月および7月に急増しており、先月と比べると100倍の報告があった。これは通常のウイルス熱ではなく、激しい痛みと発疹を伴う膨張を呈しており、これらの領域で広がっているチクングニヤもしくはその類似ウイルス疾患によると述べた。
		90665											デング熱	ProMED-mail 20090803.2723	ベトナム保健省予防医学管理局はデング熱を防ぐために蚊の幼虫を殺傷する目的で、州の保健局と予防医学センターに少なくとも1年に2回薬品を散布するよう依頼した。衛生疫学研究所は、蚊の幼虫の発生を防ぐために湖や池に薬品を散布する試験的な計画を立てている。また、同研究所は、節足動物に感染している細菌であるWolbachiaを使用する研究を行っており、Wolbachiaは蚊の寿命を縮める。当局は、この細菌を放出するための蚊が生息している地域を選定している。当局によると、2009年7月19日現在、国内で36,046例のデング熱感染が報告されており、主に南部で2008年の同時期より11.7%増加している。
													デング熱	ProMED-mail 20090810.2840	2009年8月9日、インドBiharのMunger地区で脳マラリアにより6例(子供を含む)が死亡し、1000人以上がこの病気で苦しんでいると、地域保健局は発表した。この感染が初めて報告された2週間前以降、死亡がMungerのHaveli Kharagpurで起きた。Haveli Kharagpurでは80の村が脳マラリア症例を報告している。
													デング熱	ProMED-mail 20090817.2908	2009年8月13日、スリランカ厚生省の疫学局はデング熱症例数は22,757に増加しており、これまでに232例が死亡したと発表した。最新の統計によると22,757例のうち最も患者数の多かった6月では7050例であり、続いて7月までに6714例が報告された。2008年には4156感染例および85死亡例のみであり、著しい増加を示していることから、当局は、蚊が媒介する感染を撲滅するために国民意識を高めるキャンペーンを実施している。
258	2009/10/26	90666	日本赤十字社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無		A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	90550に同じ
													B型肝炎	日本肝臓学会第 37回東部会 O- 85	90550に同じ

ID	登録日	種別	研究種別	研究機関	実施地域	実施期間	実施者	実施機関	実施国	実施言語	論文種別	疾病名(PT)	出典	概要
												B型肝炎	Transfusion 2009 July; 49; 1314-1320	HBsAg(hepatitis B surface antigen)に陽性を示した供血者とHBV(hepatitis B virus)感染者とのHBVgenotypeを比較するため、HBsAg陽性供血者の遺伝子型を決定した。2006年10月-2007年9月の日本人供血者のデータは日本赤十字社から提供を受け、1887例についてHBVの主な6genotypes(A-F)をELISA(enzyme-linked immunosorbent assay)法によって決定した。HBsAg陽性ドナーについてHBVコア抗原に対するIgM抗体の有無の確認を行った。供血者と患者間で示されたHBVgenotype分布における有意差はC/B遺伝子型比で認められ、この比率は供血者で低く(2.0-3.9)、患者で高かった(5.3-18.2)。また、genotypeBの比率は10歳代の13.8%から増加し、50歳代では42.4%であったが、genotypeC比率は10歳代の83.1%から50歳代の55.1%に減少した。HBcAgに対するIgM抗体およびNAT(nucleic acid test)両者に陽性であるドナーでは、genotypeAおよびBは男性のみであった。日本人供血者におけるHBVgenotypeの年齢特異的な分布は、B/C遺伝子型比に特徴があり、米国もしくは西欧諸国由来であるHBVgenotypeAの性特異的な分布は、日本人男性ドナーに観察された。
												感染症	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55; 245	90550に同じ
												E型肝炎	Emerging Infectious Disease 2009; 15; 704-708	90550に同じ
												E型肝炎	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55; 244	90550に同じ
												HIV	Pediatrics 2009; 124; 658-666	90550に同じ
												HIV	第83回日本感染症学会総会 2009 April 23-24; 314	90550に同じ
												HIV	Nature Medicine 2009; 15; 871-872	90636に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4; e1000455	90527に同じ
												インフルエンザ	Virus Res. 2009; 140; 85-90	90550に同じ

ID	発症日	発症地	患者名	年齢	性別	職業	経過	検査結果	診断	出典	概要	
										新型インフルエンザ (H1N1)	N Engl J Med 2009; 360; 2605-2615	90473に同じ
										新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
										新型インフルエンザ (H1N1)	Eurosurveillance 2009; 14; 19244	90550に同じ
										ウイルス感染	日本感染症学会 第83回総会 P224 O-171	90505に同じ
										ウイルス感染	ProMED-mail 20090806.2782	2009年8月4日、ブラジルMazagaoで過去3か月間に657例がオロポーチ熱に感染した事を当局は発表した。このうち29例はIEC(Instituto Evandro Chagas)によって確定診断がなされ、この病気の原因はCulicoides属ヌカカによる刺咬であると分かった。症状はデング熱やマラリアに似ており、発熱、頭痛および全身性筋肉痛である。初発例は2009年3月に発生し、4月および5月には報告が激増し、MazagaoのVelhoおよびCarvaoで600を超えた。オロポーチウイルスはブラジルで2番目のアルボウイルス熱の原因ウイルスであり、ブラジルでは過去30年間に約50万人の発熱例が起きている。オロポーチ熱のアウトブレイクはアマゾン地域でのみ報告がある。
										ウエストナイルウイルス	CDC (http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&controlCaseCount08_detailed.htm)	90550に同じ
										クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion Epub 2009 January 5	90550に同じ
										チクングニヤウイルス感染	CDC 2009 August 17	90550に同じ
										バルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
										HTLV	47 news. 2009 Jun 27	90550に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原料地名	製造国	有効成分	有	無	無	真正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
													HHV-8感染	Journal of Infectious Disease 2009; 199(11); 1592-1598	90550に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457; 1079	90550に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	90527に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20090108.0076	90550に同じ
													BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm.)	90550に同じ
													BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbrn.htm.)	90550に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2009 May 21	90550に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	90527に同じ
259	2009/10/26	90667	日本赤十字社	pH4 処理酸性人免疫グロブリン	pH4 処理酸性人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無		A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	90550に同じ
													B型肝炎	日本肝臓学会第37回東部会 O-85	90550に同じ
													B型肝炎	Transfusion 2009 July; 49: 1314-1320	90666に同じ
													感染症	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55: 245	90550に同じ

ID	受理日	番号	製薬会社	品名	成分	剤形	製造国	有効成分	有	無	真正性	感染症(51)	出典	概要
260	2009/10/26	90668	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	90550に同じ
												B型肝炎	日本肝臓学会第37回東部会 O-85	90550に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2009 July; 49; 1314-1320	90666に同じ
												感染症	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55; 245	90550に同じ
												E型肝炎	Emerging Infectious Disease 2009; 15; 704-708	90550に同じ
												E型肝炎	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55; 244	90550に同じ
												HIV	Pediatrics 2009; 124; 658-666	90550に同じ
												HIV	第83回日本感染症学会総会 2009 April 23-24; 314	90550に同じ
												HIV	Nature Medicine 2009; 15; 871-872	90636に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4; e1000455	90527に同じ
												インフルエンザ	Virus Res. 2009; 140; 85-90	90550に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	N Engl J Med 2009; 360; 2605-2615	90473に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Eurosurveillance 2009; 14; 19244	90550に同じ

